

愛知教育大学附属高等学校 令和7年度学校評価計画書

重点目標	主担当	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
あたたかさと活気のある学校をめざす。	全教員	教員からの働きかけを増やし、自発的な挨拶を継続して促す。	【生徒意識】 生徒が自ら進んで挨拶できた。	自ら進んで挨拶できている生徒割合が A：90％以上である。B：80％以上である。 C：70％以上である。D：70％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	9月と1月に生徒対象のアンケート調査をする。
	生徒指導	学校行事等において、生徒各自が責任感を持って取り組み、主体性と協働性が高まるような働きかけを行う。	【生徒意識】 学校行事等に積極的に参加した。	学校行事に積極的に取り組めた生徒割合が A：90％以上である。B：80％以上である。 C：70％以上である。D：70％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	9月と1月に生徒対象のアンケート調査をする。
個に応じた指導を充実させ、学び手の心に灯をつける授業づくりをめざす。	教務教科	生徒一人ひとりを大切にした指導を心がけ、授業力向上のため自己研鑽に積極的に取り組む。	【保護者意識】 教員は生徒のことをよく理解し真摯に対応している。	真摯に対応していると感じた保護者割合が A：90％以上である。B：80％以上である。 C：70％以上である。D：70％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	12月に保護者対象のアンケート調査をする。
			【生徒意識】 授業を通して学ぶ意欲が向上した。	学ぶ意欲が向上した生徒割合が A：90％以上である。B：80％以上である。 C：70％以上である。D：70％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	9月と1月に生徒対象のアンケート調査をする。
自己の在り方・生き方と一体的で不可分な課題を発見・解決していく能力の育成を図る。	進路指導 探究推進	進路を切り拓く探究活動を掲げ、進路指導と連携した探究活動を実践していく。	【生徒意識】 探究活動と自らの進路目標が関連している。	探究活動と自らの進路目標が関連していると感じている生徒（3年生）割合が A：80％以上である。B：70％以上である。 C：60％以上である。D：60％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	9月と1月に生徒対象のアンケート調査をする。
教員に進む人材の育成に努める。	校務	事前指導を含めより計画的な教育実習を実施していく。	【実習生意識】 充実した教育実習ができた。	充実した教育実習ができた実習生割合が A：90％以上である。B：80％以上である。 C：70％以上である。D：70％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	5月と9月の教育実習後にアンケート調査をする。
	探究推進	教員養成プロジェクトを通して、教職の魅力、教職の難しさを伝えていく。	【プロジェクト参加 生徒意識】 教職についての理解が深まった。	教職について理解が深まった生徒割合が A：90％以上である。B：80％以上である。 C：70％以上である。D：70％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	9月と1月に生徒対象のアンケート調査をする。
いじめの予防に取り組み、安心・安全な学校を実現する。	生徒指導 保健 全教員	人権尊重の精神のもと、他者を思いやる心と行動の大切さを伝える。	【生徒意識】 学校生活を安心・安全に過ごしている。	安心・安全に過ごしている生徒割合が A：90％以上である。B：80％以上である。 C：70％以上である。D：70％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	9月と1月に生徒対象のアンケート調査をする。
			【教員意識】 いじめ予防に取り組めた。	いじめ予防に取り組めた教員割合が A：90％以上である。B：80％以上である。 C：70％以上である。D：70％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	9月と1月に教員対象のアンケート調査をする。
時間外勤務縮減に向けた業務改善や多忙化改善に努める。	管理職 学年 分掌 全教員	業務の見直し、会議運営の効率化、職場環境の改善、教職員の意識改革、時間管理の工夫等を進める。	【教員意識】 教職員一人ひとりが多忙化改善に向け、業務内容を点検し、効率的な業務遂行に取り組めた。	業務の削減・効率化に取り組んだと答えた教員割合が A：90％以上である。B：80％以上である。 C：70％以上である。D：70％未満である。	C、Dの場合、改善策を検討する。	9月と1月に教員対象のアンケート調査をする。
			【教員退勤時間】 教員の退勤時間が20時過ぎとなる延べ日数（日数×教員数）を減らす。	昨年度に比べ、退勤時間20時過ぎの延べ日数が A：40％以上減少した。 B：30％以上減少した。 C：30％未満の減少であった。 D：減少しなかった。	C、Dの場合、改善策を検討する。	毎月の教員在校時間で調査する。